

※平成30年度自己点検自己評価(平成30年4月1日～平成31年3月31日)による評価

大項目	点検・評価項目	点検表項目総括	特記事項 (特徴・特色・特殊な事情等)	自己評価 優れている4 適切3 やや不適切2 改善が必要1	学校関係者 評価委員会評価 優れている4 適切3 やや不適切2 改善が必要1	学校関係者評価委員会からのご意見
1 教育 理念 ・ 目的 ・ 人材 育成	1-1 理念・目的・育成人材像 1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	学校の教育理念。育成人材像などは、学校案内、学校ホームページ、学生便覧など様々な機会を通して、学校のステークホルダーである学生、保護者、業界関係者に伝えることができている。学生便覧に3つのポリシーを明記し育成人材像の可視化を図っている。	本校には卒業研究や海外研修など、長年にわたって蓄積してきた優れた教育システムがある。平成26年より職業実践専門課程の認定を受けて業界との連携を一層強化して学科の特色を明確にしている。また今年度は専門職高等教育質保証機構の第三者評価を取得し、より一層情報の可視化と誰の目から見ても評価いただける教育システムの構築を図っている。	4	4	理念、目的、育成人材像はしっかりと定められている 卒業研究や専門学校では珍しい海外研修(解剖学)などを取り入れており、良い教育システムの構築ができている。 3つの建学の理念が明確に提示されている。
	1-1 理念・目的・育成人材像 1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	学生便覧には学科の教育目標、育成人材像、取得目標資格等が記載され、学生にも周知されている。カリキュラムの編成には、業界関係者の意見を反映させるしくみができている。教員の採用に際しては職能団体等の協力を仰いでおり、学内講義・実習・行事等では業界関係者が直接指導して、業界の現状や求められる人材像などが学生に伝えられている。必修科目である学外実習では業界の現場体験が可能である。	継続的に教育課程編成委員からの定期的な業界情報の収集と、キャリアセンター職員の業界情報収集を統合して各学科の教育に反映させる仕組み作りに取り掛かる。実践的な内容の教材作成については、業界との連携を図るため、職能団体等と協議を始めており引き続き継続していく予定である。	3	3	業界目線を最重要視されているとお聞きしましたので、今後期待しております。 職能団体等の協議を進めていただきますようお願い致します。 学生の就職後の評価・評判をどのように確認していますか？学生に何が欠けていると就職先に評価されているか。 (この委員会でもそうですが、)業界情報の収集はできている。 業界目線を目指した取り組みがなされている。
	1-1 理念・目的・育成人材像 1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	本校では3つのポリシーを掲げ教育の理念に基づいた人材育成を行なっている。卒業研究や海外研修プログラムなどの特色ある教育活動により、職業に直結した教育を展開している	さらに時代背景を意識し特色ある内容の教育を充実させていく。	4	4	理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでおられるのはとても素晴らしいと思いません。 求められる人材の変化が早いので、業界との連携が重要。 教職員、教育にも十分に取り組んでいる。 時代のニーズが必要であることが認識できている。
	1-1 理念・目的・育成人材像 1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	中長期的な学校の将来構想は法人の5か年計画や事業計画に定めており、学校内の会議等で教職員に、また学生・保護者・業界関係者には学園新聞やホームページで周知している。	学校の将来構想については、より具体的にわかりやすく学校関係者に周知できるよう努力を続ける。また社会の変化に合わせて将来構想を組み立てている。	4	4	時代のニーズに合わせた学科編成をお願い致します一その他 教職員、教育にも十分に取り組んでいる。 新しい学科の開設などニーズを意識されていることがうかがえる。
2 学校 運営	2-2 運営方針 2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	本校の運営方針は教育理念や育成人材像をもとに設定されている。運営方針は毎年度作成される事業計画にも明示されているが、事業計画の作成には教職員の代表が委員会を作って作成にあたり、作成後は校内の会議を通じて周知を図っている。	運営方針は年度計画として毎年度検討され、文章にまとめられている。運営方針が記載されている事業計画書の書式は法人内で統一されており、10年以上にわたってほぼ同様の書式で作成しているため、姉妹校間で比較検討したり、過去の取り組みと比較することが容易である。	4	3	運営方針、事業計画書を明示しており、示されている。 学生だけでなく教員の育成にも力を入れている。
	2-3 事業計画 2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	学校法人大阪造産学園では中期計画として5か年計画を策定しており、各校はその計画に基づいて事業計画を策定している。5か年計画、単年度の事業計画ともに、学校教職員に対して会議等を通して理解と共有を図っている。事業計画には年度目標(定量・定性目標)、予算、運営体制、職務分掌なども明記されている。	事業計画では5か年分の学生数を予測し、収支予算の計画も作成している。学校の経営基盤を安定させることが新しい取り組みにつながり、学校の発展に寄与することになる。	3	4	将来展望が明確にされていると思います。 新たな事業に対する計画が明白でない。
	2-4 運営組織 2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか 2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	法人の理事会、評議員会は規程に則り適正な運営がなされている。学校内の組織として教務部と事務部があり、それぞれ職務分掌を明確に定めて業務を行うとともに、会議等で情報を共有し、教職員全体チームで学校運営を行っている。	学園全体として、「人は財産」という考え方が徹底されており、研修を体系的に行っている。教員対象、事務職員対象、学科長対象、管理職層対象などの階層別研修や、教職員全体研修など目的に応じた種々の研修が実施され、教職員の資質向上を図っている。	4	4	十分な研修がされていると思われる 教員の各施設の交流もされており、教員や管理職の研修が充実している。
	2-5 人事・給与制度 2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	人事関係では就業規則が整備され、育児や介護などの休業に関する規定をはじめ、働く人を支援する仕組みが出来上がっている。人材募集では法人のホームページを中心としてオープンな採用を行っている。基本的な人事関係は法人本部が統括しているので、問題なく運営されている。	教職員の人事課は法人全体で共通の内容となっている。まず教職員各々が年間の自己目標に対する自己評価を報告し、それに基づいて一人ずつ上長面談が行われるので、単なる人事課だけでなく振り返りと成長の機会となっている。	4	4	この項目については不明であるが、離職率が低いと思われる。
	2-6 意思決定システム 2-6-1 意思決定システムを整備しているか	学校内の意思決定システムは整備されており、書類の流れや権限についても学内の会議・研修を通して教職員に周知されている。これらは会議規定等に定められ、年間の事業計画の中にも明示されている。	教職員関係の書式は法人内で統一されている。	4	3	
	2-7 情報システム 2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	学生の入学前から卒業後までのデータは、学校の基幹システムであるAS400Iによって管理されている。このシステムはサーバーと専用回線につながっておりセキュリティ面でも優れている。メンテナンスは提携している企業が一括管理している。	AS400Iはすでに20年以上利用しているシステムであり、現在より使いやすくデータ活用のしやすいシステムへ順次変更が行われている。今後、資料請求者のデータ入力や入学生管理のシステムから改良が始まり、出席・成績入力や就職関係などの変更が進められる予定である。	3	4	今後、資料請求者のデータ入力や入学生管理のシステム改良が始まり、出席、成績入力や就職関係などの変更が進められる予定とのこと。是非実践していただきたい。 システムの改良、適正な運用をお願いします。 データへの明示もされている。
	3 教育 活動	3-8 目標の設定 3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか 3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	学校の建学の理念「実学教育」「人間教育」「国際教育」および学校の事業計画書を本に、学校及び各学科で教育目標(養成目的・ミッション等)を策定し明示している。 また、各学年での知識・技術・資格等の取得レベルと修得プロセスと評価方法を明文化している。	資格に対して委員会を組織し、体制整備や情報交換を行ない目標設定及びその達成に向け対策を講じている。 プレカレッジ・プレスクールや高専連携授業等、入学前教育についても積極的に実施している。今後、更なる拡充を図っていく。	4	4
3-9 教育方法・評価等 3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか 3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか 3-9-3 キャリア教育を実施しているか 3-9-4 授業評価を実施しているか		教育課程の編成においては、関係各局や関連法規、業界・教育課程編成委員・学校関係者の評価、年2回のカリキュラムアンケート、定期・随時の学生面談など、学校内外の情報や評価をもとに必要な編成・改善を行なっている。	カリキュラムアンケートや講師会議、学生面談など授業評価を聴取し教員にフィードバック・学科内で共有するシステムが整っている。また、学科によっては地域でも最も歴史があり多くの卒業生を輩出しているほか、業界連携等を積極的にしている。さらに、高校とも連携を強化し、本校の教員が特別講演や授業を行うなど高校からの信頼も構築することができている。	4	4	前期、後期共にカリキュラムアンケートを実施しており、それを教員にも提示されている。
3-10 成績評価・単位認定等 3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか 3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか		各学科により成績評価の延長線上に、各国家試験や各資格試験が位置付けられている。学生は各科目の単位を履修することで、各国家試験や各資格試験の実力も伴っておくことが、成績評価の意義でもある	各学科・各課程(昼間部・夜間部・専攻など)による学生の生活や学力に変化があるので、放課後、土曜日や日曜日に開催される補習や補講の計画や整合性を考慮していく必要が生じてくる。	4	4	国家試験合格に向けての単位認定をされており、結果も出ている。
3-11 資格・免許取得の指導体制 3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか 3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか		各学科ともに国家試験受験対象学年の学生には、現在も同問題(古い問題は随時水準問題に差し替え)で継続し続けている国家試験模擬試験(卒業認定試験と称称)で定観視し分析している。資格試験については過去問題集を中心に対応をしている。また、入学前から動機付けを行い、各学年ごとに到達確認を行なっている。	入学時に発生している学習習慣の誤差を埋める指導体制を意識している。各学科・各課程(昼間部・夜間部・専攻など)による学生の生活や学力に変化があるので、放課後、土曜日や日曜日に開催される補習や補講の計画や整合性を考慮していく必要が生じてくる。	3	3	資格、免許取得な専門学校にとって、とても大事なことと思います。補習や補講に努めていただきたい。 国試合格率が向上したことは評価できる。 低学力学生への取り組みをより一層増やして欲しい。
3-12 教員・教員組織 3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか 3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか 3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	教員の採用にあたっては、必要となる資格や業務経験などを書類や面接によって確認し、法令に定められた要件を守っている。学科教務の組織は規定により職務分掌が定められている。学科内の教育連携は学科ミーティング等で調整され、学生指導や資格指導等に成果を出せるよう運営されている。	エンロールマネジメントに沿った入学前～入学中～卒業後でのキャリアパスの考え方を浸透させている。現在、法人内で教育スキル向上に向けた研修を実施している。一方の「教える」教育から双方向の「学ぶ」教育へと発展させるような取組みがスタートしている。	4	4	教員指導をしっかりとされているとお聞きし、すばらしいと思うと同時に安心です。 新たなカリキュラムに対応できる教員の育成が急務であると考えます。	

大項目	点検・評価項目	点検表項目総括	特記事項 (特徴・特色・特殊な事情等)	自己評価 優れている4 適切3 やや不適切2 改善が必要1	学校関係者 評価委員会評価 優れている4 適切3 やや不適切2 改善が必要1	学校関係者評価委員会からのご意見
4 教育成果	4-13 就職率 4-13-1 就職率の向上が図られているか	就職実績のある事業所との良好な関係を維持しつつ、常に業界のマーケティング調査を行い、新規の就職先も同時進行で開拓する事が大切。業界と学生のマッチング率を上げていくことで今後も就職率向上はもちろん、業界との信頼関係を構築していく事が重要。	学生が満足する就職は学生のニーズにあった就職先の確保と事業所が求める人材のマッチングにある。教務と連携を密にし、学生の希望、性格、能力等をキャリアセンターも把握し、教務と共に学生の満足度を上げる就職支援を実施する。	4	4	就職率はとても大事だと思いますので、就職後のこともしっかり見守っていただきたい。就職率100%が達成されており、キャリアセンター運営も適切である。業界との連携を積極的に計り、開業鍼灸師を目指すようにしてほしい。就職活動の取り組みが早期に開始されており、対策がうかがえる。
	4-14 資格・免許の取得率 4-14-1 資格・免許の取得率の向上が図られているか	全校的な学校生活のなかで、年間を通してそれぞれの資格対策において、教職員はもとより、学生も個々の資格取得、高合格率の達成に向けた努力や意欲が見られるが、上下差の拡大傾向は免れない。そのようななかで国家試験合格や資格取得に関する目標を達成する工夫と対策に更なる講師の意識改革も含めた教育努力が必要と思われる。	各学科・各課程(昼間部・夜間部・専攻)による学生の生活や学力に変化があるので、放課後、土曜日や日曜日に開催される補習や補講の計画や整合性を考慮していく必要が生じてくる。	4	4	学習方法の指導徹底を実施して欲しい。
	4-15 卒業生の社会的評価 4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	就職先については、定期的就業状況調査に加え求人票入手時や学外実習先依頼時、訪問時やアンケートを通して、卒業生の在職・離職状況、役職など就業状態の把握に努めている。また、同窓会活動を通してや学校イベントに協力していただいた卒業生や卒後勉強会に参加された卒業生に直接ヒアリングを行っている。さらに、入職1年次の早期離職や年次の離職を把握する為に、学科の教員より定期的に卒業生に対して連絡を行うシステムが構築されている。	卒業生の就職先のデータベース化を行っている。卒業生の中には就業先や関係団体で高い評価を受け、相応の役職や役割を担っている者も出ている。また、卒業生には業界特別授業や講師、学校イベント(広報、就職)への協力など様々な形で学校運営に関わっていただいている。さらに、多数の卒業生が専任教員として学校教育に携わっている。就職懇談時においても卒業生に参加して頂き在校生の保護者に紹介するなど関わる機会が多い。	3	3	卒業生の社会評価は、貴校の評価になるのでしっかり把握していただきたい。課題ありと評価されていますが、どのような点が課題と考えられているのでしょうか。内容を読む限りは課題は見当たりません。卒後学習のモチベーションの低い方を引き上げるような卒後の取り組みをお願いします。学生の就職後の評価・評判をどのように確認していますか？学生に何が欠けていると就職先に評価されているか。どうしても追えない卒業生もいるが、できるだけ状況把握に努めてほしい。卒業後の就職状況をできるだけ把握してほしい。鍼灸の仕事をしていない卒業生の把握とか。
5 学生支援	5-16 就職等進路 5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	今年度よりジョブカードを導入し、全教職員にも研修を実施し学生指導にあっている。合同面接練習会を毎年実施しているが、他学科との共同開催をすることで就職への意識付けや気付き、モチベーションの向上に繋がっている。また年々事前課題に対する学生の回答レベルも上がってきている。	学内就職委員会を設置しており、就職率向上のための対策や学生のモチベーション向上のために就職出陣式や業界特別講義を実施している。大学編入へのサポートや他国家資格取得のための進学指導も実施。	4	4	有名企業だけではなく、仕事そのものへの興味と意義も考えて、就職先を考える指導が必要。
	5-17 中途退学への対応 5-17-1 退学率の低減が図られているか	退学は、教育機関として学生の将来に対する責任と学校経営の原資でもあり、学校運営の最重要課題の一つである。中途退学の事由は学習不安、経済的困難、進路変更、生活習慣等さまざまであり、学生個々の事由に対応することが求められている。	本校では、退学率を4%以下と目標を設定している。	4	4	様々な理由があると思いますが、今後ともよろしく願致します。目標達成されている。学力不安者支援など工夫されている。
	5-18 学生相談 5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか 5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	本校は担任を中心に、日頃の学生の様子や出席状況等を把握し、学生面談を実施している。状況によっては事務職員が相談窓口となりサポートすることもある。学校全体で連携・協力して学生支援を行えるよう十分なサポート体制を常時整えている。また、学生の身体面・精神面をケアするための学生相談所・クリニックもあり、学生が心身ともに健康で、充実した学生生活を送ることができるよう教職員とカウンセラー・医療スタッフが連携・協力して学生支援を行っている。	本校の教職員は研修にてカウンセリングスキルを習得しており、担任を中心に学生の悩みに耳を傾け、相談しやすい雰囲気の日頃から作ることに努めている。また、専門的な高度な知識と技術を持ったカウンセラーが常駐する滋慶トータルサポートセンターを学生なら誰でも利用することができる。教育、心理的な立場から種々の問題点を包括的に支援できるよう体制を整えている。	4	4	本校の卒業生も色々悩みをかかえながら学生生活を送っていますが、手厚く指導していただいている事に感謝しています。学生相談も随時されており、充実されている。
	5-19 学生生活 5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか 5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか 5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか 5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	独自の育英会奨学金・特待生制度を設け、教育訓練給付金、アルバイト紹介、学費分納制度の設定など学生の総合的な経済的支援体制を行っている。健康管理については学校医である「慶生会クリニック」と連携して取り組んでいる。また、遠隔地から就学する学生のための学生寮も完備している。	設置学科が、多様であるため、経済的支援や健康管理についても各人の状況に応じて対応している。学生寮には寮長が常駐しており24時間体制でサポートを行い、緊急時の対応にも完備している。災害時等に備え、緊急時安否確認メール制度を導入している。また、学校生活等に不安のある学生には、カウンセラー対応による支援センターを設置のうえ、サポートを行っている。	4	4	
	5-20 保護者との連携 5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	入学前・在学中の保護者会、個別懇談会の実施や年度始めに年間スケジュール送付や保護者向け冊子を作成のうえ、学校生活における留意点等の相互理解を図っている。また、前期・後期ごとに成績・各種資料・学園新聞等の送付をし、本校の教育理念、活動を理解して頂く機会を積極的に設けている。保護者との連携を図るため、就職・国家試験準備保護者会を実施し、学生の状況に応じたサポート体制をとっている。学生生活の基本である学習・生活習慣が重要となるため、担任・学科長・教務部長・学校責任者・事務局長・キャリアセンターが連携して保護者と学生への個別対応等の支援体制をとっているが、複雑化する問題に対してはより一層の連携の強化が必要だと考える。	本校では基本理念である3つの建学理念(実学・人間・国際教育)と4つの信頼(学生・保護者、業界、地域、高等学校)を基礎として、時代に即した職業人教育を行っている。また、入学前教育・キャリア設計(在学中)・キャリア開発(卒業後)と段階を得て、自己実現を目指す学生の支援体制を万全にしき、さらなる個々の状況に応じた教育支援体制をとれるように4つの信頼を深め、各業界や保護者とのより強い連携に努めている。	4	4	特に各業界との連携が行えている。
5-21 卒業生・社会人 5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか 5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか 5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	本校の卒業生は全て卒業時に「ハイテク校友会会則」に明記された同窓会会員となり、卒後教育勉強会や学園新聞を通じて、会員の相互親睦やキャリアアップを図る機会を提供している。また、学校法人 大阪滋慶学園 滋慶医療経営管理研究センター主催の医療・福祉マネジメントセミナーやグループ校や滋慶医療科学大学院大学への進学、海外提携校日本校・姉妹校への入学など、卒業後の再教育プログラムを提供することで更なるキャリア形成を図ることに寄与している。今後、増加が見込まれる社会人経験のある入学生や一部の国家資格試験不合格の卒業生についても、既修得単位認定や的確な教育カリキュラム・教育環境を提供することで更なる支援体制を確立したい。	本校の卒後教育勉強会は、学科が独自に時代背景に即したテーマを設定し、企画・実施している勉強会である。そのため卒業生のキャリアアップにむけて有意義な場を提供することができる。また、キャリアセンターや図書室は必要に応じて卒業生にも開放しており、転職等の個別相談をはじめ、卒業後のキャリアアップに有効な場として用いられている。また、国家資格系学科(臨床工学士科・柔道整復師学科・鍼灸師学科)では、本校で必要な所定単位を履修した卒業生については、国家試験不合格となった場合でも、卒業後も継続的に教育支援を行っている。必要に応じた講義、日曜勉強会の聴講や模擬試験受験だけでなく、柔道整復師学科においては、JESC国家資格対策センター主催のリスタートセンターに登録することで、滋慶学園8校と連携したICTを活用した定期的な模擬試験の受験や通学制国家試験対策講座の受講が可能となる。	4	4	卒業生の連携を深めることができるような仕組みをお願いします。就職のみではなく、進学や卒業学会を開催してほしい。	

大項目	点検・評価項目	点検表項目総括	特記事項 (特徴・特色・特殊な事情等)	自己評価 優れている4 適切3 やや不適切2 改善が必要1	学校関係者 評価委員会評価 優れている4 適切3 やや不適切2 改善が必要1	学校関係者評価委員会からのご意見
6 教育環境	6-22 施設・設備等 6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	校舎の全体状況が把握でき、昨年同様、関連企業と連携し対応することができた。特に、電話機の劣化問題の改善で全校舎の電話機を入替し、光電話の導入で通信費の削減を図っている。環境安全衛生委員会が毎月設備管理を行い早期修理を継続実施した。学生に配慮し、施設設備の管理もを行っている。 法令順守を意識し短中長期の計画を策定し施設管理を行う。	校舎が3つにまたがる問題に関しても今年度は大きく改善を行なった。学生が勉強していく上で休み時間等に移動等が発生しないように、配慮した利用を常に考慮した。その為、奨学金の説明会などは配慮した実施を心がける必要がある。(本館・第2校舎の2箇所実施) また、学生の安全に配慮した設備運営を心がける。	3	3	学生が勉強しやすいように努力されていることが良く理解できる。学生の安全に配慮した設備運営に期待します。 技術の進歩が速いので大変であるが、最新の教材を導入してほしい。 柔道整復師学科では充実されている。 校舎が分かれているのは分かりにくい。
	6-23 学外実習、インターンシップ等 6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	例年同様、学外実習、海外研修では、教育指導要領だけでなく、各学科に実施要綱やマニュアルがありそれを基に準備、実施、振り返りが行われている。 特に学外研修においては、業界の実際を知る機会、社会人となる自覚や責任、協調性を培うことの重要性を知る貴重な場となっており、十分な事前準備や必要指定要件を満たしている実習先を確保することが重要となる。また、海外研修は、アメリカ、中国の提携校と連携し、各学科にあったプログラムを実施し、グローバルな視野と感性を養う貴重な機会となっている。	学外実習では、医療系国家資格取得の資格要件を満たすための臨床実習や、出身高校への母校実習、卒業研究の一部としての学外実習、インターンシップ実習など、各学科の特性を活かした実習を行っている。臨床工学技士科、生命工学技術科では、実習前に校章授与式を実施し、学外実習へ取り組む心構えを確認している。また、就職を見据え、学生の希望を反映した実習先を確保することで、実習先が就職先に繋がることも多く見られる。 海外研修では、1年次からの事前指導(英会話等の講義)や、研修中の予習・復習を通して研修プログラムをより有用なものとする工夫を行っている。	4	4	1年次からの学外実習を更に進めてください。 臨床実習先等についても整備されている。 職場見学やインターンシップも取り入れられており、工夫がはかられる。
	6-24 防災・安全管理 6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか 6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	グループを通じて携帯できる「防災マニュアル」を作成し全学生・全教職員に配布し、防災体制の運営にあたっている。また、災害時に備えての施設・設備などの安全管理(固定設置等)も行うと共に防災訓練(消防避難訓練)を全学生、教職員に対し実施要領とおり消防署の指導の基、実施している。	3年前より時期を早め毎年6月に全ての校舎で防災訓練を実施している。また防災訓練の参加者数を意識し、極力、学外実習導入時期を外しての実施計画としている。	4	4	
7 学生の募集と受入	7-25 学生募集活動 7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか 7-25-2 学生募集を適切かつ効果的に行っているか	質問・相談は来校時に個別相談で対応し、電話相談も実施している。 学校案内は、真実性・明瞭性に基づいて作成している。 法人内に広告倫理委員会や個人情報保護委員会を設置し、チェック体制を整えている。	スチューデントレナーの授業や実験大会の実施により高等学校等との連携を密にとり、さらに高専連携授業の強化に取り組む。専門の学びを高等学校へ普及できるように努めていく。 オープンキャンパス参加者には個別相談の時間を確保し、質問しやすい状況をつくり対応していく。	4	3	高等学校との連携は大学進学率の高い学校とも密にするべきではないかーその他競合他社をどこに定めていますか？その相手のやり方をリサーチなどしていますか？就職イメージが持てるオープンキャンパスにするのが良いと思われる。SNSの活用も。高校訪問も充実されている。 臨床工学技士会のイベントなどにも参加していただき、学生募集に力を入れられている。
	7-26 入学選考 7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか 7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	募集要項には3つのポリシーを明記し、入試選考は、募集要項で明記した基準に基づいて行っている。入学者情報を教務部と共有し、学生指導にも活かしている。入学選考は年度毎に計画・予算を決定し、運営している。	年々早期に進路を決定する傾向にあり、入試選考では適性AO、適性クラブAOでの選考が中心になっている。本校では、資料請求から来校、出願までの履歴をデータとしてまとめ、入学までの導線を把握している。さらにインターネットから出願やエントリーできる「ネット出願」「WEBエントリー」も導入している。	4	3	臨床工学技士としては「物理」「化学」「数学」は入試科目として必須にしてほしい。
	7-27 学納金 7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか 7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等については、適正な取扱を行っているか	ある一定数の経済的に厳しい方が入学している。毎年、学納金については見直しを行うとともに、入学前のオープンキャンパスの段階で奨学金や教育ローンの情報を提供するなど学費相談も個別に対応している。学納金の明細・内訳も提示し、追加徴収は行っていない。また、入学辞退者に対しての授業料の返還については募集要項に記載し、適切に対応している。	AS400システムで学納金データを管理しており、銀行等からの入金情報がタイムリーに把握できるようになっている。また、経理・広報・教務が連携して学費未納者の情報を共有し、必要に応じて個別で本人や保護者に対応している。学費の入金ずれに迅速に対応することにより学費未納の防止につながっている。	4	4	
8 財務	8-28 財務基盤 8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか 8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	年間で事業計画の運用状況を随時確認し対応している。資金を増加させて安定な学校運営をしていくためには、過去の分析とともに将来の分析も必要となる。そのため事業計画作成時に過去と将来の資料を分析して学生数の増加による収入の増加及び、経費の見直しを図って資金を増やしていくことが必要となる。その情報と推移は、適切に分析と把握が行なわれていると考える。	学生数の増加のために広報活動にも影響を与えるので、そのための定期的な会議や打ち合わせを行なっている。また、広報活動費に関してはWebに集中して行なうことにより、おさえることを意識し財務基盤の安定を推し進めている。	4	4	学生の両親や卒業生などに学校設備充実のための寄付を募ることも必要か？※寄付による減税などを強調すれば寄付もしやすいので、具体的な目的を明示して…。 教育的、立地的にも条件が良いので安定している。
	8-29 予算・収支計画 8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか 8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	年度予算、中期計画は事業計画の中に組み込み、毎年11月に作成し、更に2月後半に学生募集並びに予算執行率を基に修正作成し、承認を得ている。中期計画を見据えて年度予算が立てられるので、誤った方向へ進まないようにしている。	予算の執行状況は、事務局長が確認を行い、更に理事長、常務理事が再チェックを行い、事業計画の中に組み込まれているか目を通し、改善を図っている。	4	4	学生個々の対応で100%納金を目指されている。
	8-30 監査 8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	財務体制の強化を図るために監事の監査に加えて公認会計士監査も積極的に受けている。監事の監査は業務監査と会計監査、公認会計士監査は会計監査が行なわれるので、両者の効率的な実施のために監事と公認会計士との連携及び監査スケジュールを組んでいる。	学校、監事、公認会計士との財務上の指導を受けるために、ミーティングを設けている。	4	4	
	8-31 財務情報の公開 8-31-1 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	平成17年の私立学校法改正に伴い、専修学校にも財務情報の公開が義務付けられたが、その改正を取り入れ、財務情報公開の体制を整えた。当初は閲覧の対応であったが、現在はホームページにも公開している。	資金収支、消費収支、貸借対照表、財産目録及び事業報告書について閲覧可能としている。	4	4	

大項目	点検・評価項目	点検表項目総括	特記事項 (特徴・特色・特殊な事情等)	自己評価 優れている4 適切3 やや不適切2 改善が必要1	学校関係者 評価委員会評価 優れている4 適切3 やや不適切2 改善が必要1	学校関係者評価委員会からのご意見
9 法令等 の 遵守	9-32 関係法令、設置基準等の遵守 9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	本校は厚生労働省管轄の国試系学科を含む複数の学科を擁しており、手続きや報告等は所轄官庁の指導に基づき適切に行われている。今年度、一部の学科で実施調査があったが大きな指摘は無かった。教職員に対しては、就業規則などの諸規定を整備し、会議や研修でコンプライアンスを守ることの意義についても指導している。	法令遵守や各種規定の整備、相談窓口の設置などは法人全体として取り組んでおり、ステークホルダーに対する責任を果たしている。	4	4	
	9-33 個人情報保護 9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	教職員への動機付けも定着し、定期的に全教職員の個人情報保護の資格の更新を行なっている。また、学生への指導の徹底を行っておりITリテラシーなども絡めながら継続的な指導が重要と認識し徹底している。	新入職員にはCPAの個人情報保護の資格取得を義務付けている。取得している職員には毎年の更新を義務付けている。また、本校では毎年6月にかけて各校舎に保管されている個人情報の状況確認を行い、個人情報保護台帳を作成している。	4	4	
	9-34 学校評価 9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか 9-34-2 自己評価結果を公表しているか 9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか 9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	本校では平成23年度より毎年自己評価報告書を作成している。作成にあたっては全教職員がそれぞれの業務に応じて参画しており、業務の振り返りを行うことで学校運営の改善に役立っている。また、学校関係者評価委員の皆様にも開示しご意見をいただいで改善している。自己評価報告書は学校関係者評価とともに学校ホームページで公開されている。	本校では平成25年度より学校関係者評価委員会を設置し、毎年、在校生保護者、卒業生、地域代表、業界代表などの委員による学校関係者評価を実施している。その結果については学校ホームページに掲載し、公開されている。学校関係者評価委員からの評価により、学内の改善点が明確となり、学校運営に良い影響を与えている。	4	4	年数回行われており、委員についても充実している。改善点が明確化されている。
	9-35 教育情報の公開 9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	学校の概要や各学科の教育内容等については、学校ホームページに公開されている。教育指導体制や教育システムの情報とその成果である進学率や国家試験の合格率などの情報についてもすべて学校ホームページにおいて公表されている。	平成26年度からスタートした職業実践専門課程の認定を受けたことにより、さらに情報公開を進めることができた。また、今年度は専門職質保証機構の第三者評価を取得した。	4	4	より一層充実された。WEBなどで情報開示がなされている。
	10 社会 貢献	10-36 社会貢献・地域貢献 10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	社会貢献・地域貢献はある程度できている。ただ、継続維持はできているが、もっと広い視野を持ち新しい活動を行える環境整備が必要である。国際交流に関しては盛んに行われている。学生の参加を促し、国際教育をすすめていきたい。	アジア圏への、臨床工学関連の研修協力を始め、臨床工学フォーラムを中心にアジア諸国との連携の強化は進んでいる。臨床工学技士科は特に海外進出が進んでいる。今年度より台湾やバングラデシュ、オランダの学生が在籍しており国際化が進んでいる。その為、ケアする体制の強化も合わせて行なっている。	4	4
10-37 ボランティア活動 10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか		本校では、学外実習の形でボランティア活動を行うことが多く、実学教育と人間教育がその根拠となっている。ボランティアに関する啓発活動は人間教育の一つと考え、その活動は推奨されている。	本校では学外実習や業界ボランティア活動など積極的に行っている。業界連携として学会支援や、スポーツ系イベントの支援・トレーナー活動、ロボット工作教室の支援も行っている。近年は毎年『クリーン大阪』に教職員・学生共に参加し、大阪府専修学校各種学校連合会から依頼され、東北でのマッサージボランティアに教職員・学生共に派遣した	4	4	地域の高齢者食事サービス実施の時にボランティアで来ていただいた時、皆さんにとっても喜ばれていましたので、今後またボランティアで来ていただきたいと思います。臨床工学技士の学生としては、在宅人工呼吸患者のイベントなどでのボランティアが勉強になるし、良いかと思えます。学生ボランティアも参加されている。技士会イベントや献血の協力などボランティアへの協力が見られる。
11 国際 交流	11 国際交流に取り組んでいるか	-	-	-	-	国際教育については、国による考えの違いを良く知っていく必要があると思えます。

その他、ご意見。

いつもお世話ありがとうございます。まだまだ人間的にも未熟な卒業生を親切、丁寧に個々に御指導いただき誠にありがとうございます。大変なご苦労には頭が下がる思いで、感謝の気持ちでいっぱいです。貴校に入学して、本校に来た時の卒業生を見ていると、人間的にも成長し、また、将来の希望も明るく話してくれます。明確な目標が言葉に現れています。教え子の成長が楽しみです。今後とも御指導いただきますようお願い致します。

臨床工学技士専攻科について

臨床工学技士としては、専攻科の存在がプライドが傷つく状況となっている。自己の職種に対するプライドも大切にすることがある。時代的にも専攻科は終了するべきであると考え。貴校が先んじて取り組んでいただくことを期待する。

学科定員充足率について

今後更に少子化が進むため、定員を減らすことも検討するべきである。教育の質を高めることで、学生は集まるため、受験生を増やすことにより、学生の質が高まり、良い循環になるのではないかと。今後、公立の大学設立や専門学校の大学化が進むため、より質の高い学生を集めるための取り組みが必要である。

高等学校との連携について

働き方の多様化の時代となってきており、「有名大学→一流企業」という生き方がべすとではないと高校生にも広まっていると考える。大学進学率の高い高等学校にも、専門職としての働きがいと説明していただき、優秀な学生がハイテクに入学する動機付けになるよう取り組んでいただきたい。

学生への法令教育等を行っているのか？

各学科の主な就職先分野の最低限の法知識(食品分野では食品衛生法、食品表示法など)や、法を犯した場合の企業への罰則についての知識も必要と思う。

また、昨今企業がビリビリしているバイトテロやSNSでの誹謗についても、本人や企業がどんな影響、罪があるのかを知っておく必要がある。

HACCP義務化やISOなどについても学生への教育が必要になってくると思う。

特性の先生のスキルに偏らないように、実際に業界や現場で求められている内容にしなないと勉強のための勉強になる。AIは重要だが、きわめて流動的、進歩的な技術なので留意が必要だと思う。

臨床工学技士科で、今後の医療の進歩やニーズを見据えて、カリキュラムの内容対応(コミュニケーションなど、ノンテクニカルスキルへの対応)がなされ、常に革新的な運営がなされている。国家資格の取得後、就職施設により資格以外の業務にも対応できずばらしいと感じた。国際化に伴い、外国の文化も理解しつつ、日本の風土や文化もおしえていただければ現場としてとても助かります。

診療放射線技師学科は令和元年度より開学となりましたので、アンケートの残項目に回答はできませんでした。